



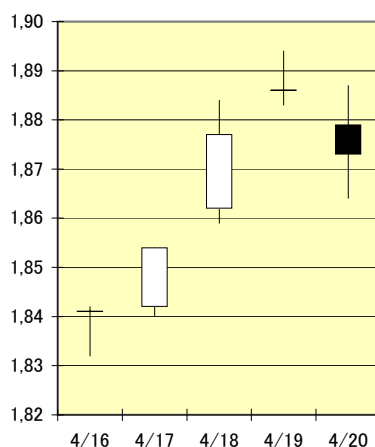
ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

1. Market Rate

			4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	1,8410	1,8540	1,8770	1,8860	1,8730	-0,0130
	USD/YEN	Spot	80,37	80,87	81,29	81,64	81,51	-0,13
	EURO/USD	Spot	1,3134	1,3125	1,3118	1,3137	1,3223	+0,0086
	REAL/YEN	Spot	43,66	43,62	43,31	43,28	43,52	+0,23
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,82	1,99	2,14	1,87	1,93	+0,06
		1Year(p.a.)	2,17	2,32	2,45	2,24	2,28	+0,04
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,73	8,69	8,68	8,44	8,43	-0,01
		1Year(p.a.)	8,73	8,67	8,68	8,44	8,41	-0,03
Stock	Bovespa		61.954,55	62.698,87	63.010,48	62.618,41	62.494,08	-124,33
Bond	EMBI+(bp)		187,00	182,00	181,00	181,00	181,00	u,c,
	Global 40		132,700	132,800	132,750	132,900	132,900	u,c,

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日U\$/R\$推移



〔来週の予想相場レンジ〕

1.84~1.92

〔来週の為替市場注目点〕

今週は欧州の債務懸念の再燃などの外部環境の悪化に加えて前週に続くブラジル中銀による“複数回介入”を受けてレアルは3%近く下落し、昨年11月以来の水準となる1.89台まで下値を拡大した。週末にはG20、IMFの会合が控えており、金融緩和を背景とした過剰流動性に焦点が当たっておりブラジル国内への流入規制についてのコメント等が出されるか注目である。また、来週も所謂“介入ポイント”で確り介入が行われるかに引き続き市場の注目が集まっており、中銀の動向如何によっては相場が動意づく可能性もあり、注意が必要であろう。

- ・ 伯インフレ指数: IPC-S (23日)、IPCA-15 (24日)、IGP-M (27日)、
伯週間貿易収支 (23日)、経常収支、対内直接投資 (24日)、
伯失業率、金融政策決定会合議事録 (26日)
- ・ 米ケース・シラー住宅価格指数、CB消費信頼感指数 (24日)、
米FOMC、FRB議長定例会見、耐久財受注 (25日)、GDP速報 (1Q) (27日)
- ・ 日: 日銀金融政策決定会合、完全失業率、消費者物価指数 (27日)

2. 市況、トピックス (As of apr-20)

〔欧州の債務懸念の再燃やブラジル中銀の連日に渡る複数回介入を受けてレアルは大幅に下落する展開〕

今週の為替相場はU\$1=R\$1.8410で寄り付いた。週初に発表されたインフレ指標が予想比強めの内容となったことから俄かに金利先安観が後退し、レアルは週間高値となるU\$1=R\$1.8320を付けた。しかしスペインの10年国債利回りが長期的に持続不可能とされる6%を上回ったことからユーロ圏の債務危機問題の再燃が懸念され、“リスク資産”の代表であるレアルは投資家のリスク許容度の低下を背景に下落に転じた。前週から続く中銀による1日2回に及ぶドル買い介入は今週に入っても続き、レアルは週を通じて売り圧力の強い展開となった。週史にかけても欧州債務危機再燃による市場センチメントの悪化や中銀による継続的なドル買い介入を受けてレアルは連日安値を更新し、1.88台まで続落した。18日夜には市場の注目であった金融政策決定会合の結果が発表され、大方の予想通り政策金利が0.75%引き下げられ、SELIC金利は9.00%となった。更に声明ではインフレの落ち着きを理由に次回会合での更なる利下げの可能性に含みを残したことから翌日の19日には金利先物で金利が急低下し、レアルも一気に1.89台まで下落した。レアルは週間安値となる\$1=R\$1.8940を付けたが19日には週を通じて見られた中銀によるオークションが実施されず、失望感からレアルの買戻しが強まり、1.88台まで反発した。

本日の為替相場はU\$1=R\$1.8790でオープン。ブラジル時間早朝に発表された独IFO景況指数が予想を上回るなど外部環境の改善を受けて朝方のレアルは1.88を割り込む水準で小確りと推移した。しかし、ジウマ大統領とマンテガ財務相が当地のセービングアカウントの金利引下げに向けて会合を持つとの噂が広まるとレアルは反転し、10時過ぎに本日のレアル安値となるU\$1=R\$1.8870をつけた。しかしこの噂が否定されるとレアル買いが再び優勢となった。今週の“介入ポイント”である12:30に向けてレアルのじり高推移が続く中、昨日に引き続き中銀の介入が見送られるとレアル買いが加速し、1.86台半ばまで急騰した。午後に入ると材料出尽くし感から同水準で小動きとなったが、第2の“介入ポイント”である15:30には中銀オークションが実施されレアルは1.87台前半まで反落し、結局U\$1=R\$1.8730で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなされるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。